



第56回 年次大会

2010年4月10日 (土)
新潟テルサ

楽しい例会

L. 坂井 正

毎年、どのクラブの会長も「楽しい例会」づくりを年間の目標に掲げ、出席率アップに頭を悩ませている。なぜなら例会はクラブの活力を測るバロメーターだからだ。

出席率が高く、例会に活力のあるクラブは、組織が十分に機能を果たし、会員の和がうまく取れているクラブである。

小委員会が活発に会合をもち、議題を運営・事業委員会に答申する。各委員会は慎重に審議し、例会に報告する。例会は最高決議機関になるので、会員の意見を聞き、決議する。小委員会から始まり、例会で終わる『和』である。

このように、会員全員が参画して



例会を運営できれば「楽しい例会」になるわけである。

さて、そのような「楽しい例会」づくりにはタイムリーな話題を提供するゲスト・スピーカーが欠かせない。または会員スピーカーで、それぞれの職業を理解し合い、会員の人柄に触れることも大いに役立つ要素である。

たとえば、長岡悠久ライオンズクラブでは、「計画・接待委員会」が楽しい例会の企画づくりに心血を注いでいる。会員スピーカー、ゲスト、スピーカーの招請をはじめ、体操指導員を招いてハッピー体操をしたりして楽しんでいる。そして今年についてもユニークな計画が進行している。地元の野菜を使ったお弁当や井飯各種、世界の味巡り、日本の味巡りなどである。年間を通じて例会場の厨房と相談しながら、会員がさまざまな食文化を堪能し、それを楽しむにできる機会を提供している。

他にも、移動例会、他クラブとの合同例会など、大いに工夫をしてほしいものである。今までも自衛隊での移動例会で、連隊長からのスピーチをしていただき、自衛隊との交流を図ってきた。

又、紅葉の秋など野辺での豚汁例会など楽しいのではないだろうか。赤谷山荘に姉妹クラブのセントラルクラブを招へいして、合同例会・合同アクティビティを計画すると、新潟のメンバーは喜ぶだろうと思う。

これから楽しい例会で活力あるクラブをめざし、地域密着のアクティビティを大いに計画してほしいと思う。

新入会員

オリエンテーションに参加して

L. 水嶋 計彦

新入会員オリエンテーションが、三月二十五日(木)三条市地場産センターで開催され当クラブから五名が参加し全部で一五〇名近くの参加者で熱気あふれる会場に皆な真剣な顔で聞き入っていました。

内容は、開会挨拶で始まり講演は当クラブの地区名誉顧問坂井正L.から、「楽しい例会」にして行く為には(1)皆なで参加し何でも言える明るい雰囲気作り(2)食事を通して会員相互で信頼関係を築く(3)新入会員に対してサポートとメインターをやる等、貴重なお話を聞く事ができました。



次に四つのクラブから、三名以上会員増強に取り組んだ体験発表があり、熱意を持って継続して行動を起こした事に、大変感心致しました。

こうした内容の濃い有意義な勉強した事を、これからのクラブ活動に生かして参りたいと思います。

葛城のひろば

Speedy

Stylish

Safety

L. 熊倉 保彦

和田ライオンより、何か趣味の話をと依頼があり、任せてくださいと引き受けましたが、人に語る程の物はありません。しいて言えばバイクは年間一万キロ以上は乗っている話でもしてみたいと思います。私のバイク歴は十二年程で坂井学ライオンの方がキャリアもテクニクもあり、話も多くあると思います、せっかくの機会です。

バイクと一言で言っても種類は色々あります。この年でバイクに乗っているとと言うと、ハーレーですかと言われるくらい代表的なハーレーダビットソンはアメリカンタイプ、北海道のような広大な直線走るのにはいいと思います。サーキットを走るようなスポーツタイプ、加速、コーナリングは良いが長距離の走行は姿勢が前傾の為疲れる。長距離高速走行のツーリングに優れるツアラータイプ、スポーツ走行とツーリング性能を合わせたスポーツツアラー、気軽に乗れるネイキッド、レトロ感覚のビンテージタイプ、短パンサンダルでも乗れるスクーター、林道などはオフロードなどと種類は様々、自分の走り方使い方に合ったバイクを選ぶ訳だが、これが割と難しい。自分がほんとうに気に入っているバイクは、とかく人の目も気になる、音も気になる、そんな中で思うことは誰と何処を走るかで決まることも多い、それとバイクは九十九パーセント趣味で危険で生活には必要ない物なので、考え過ぎると買えない、わりと衝動買いであり後悔することも多い、長く同じバイクに乗っている人もいるが、坂井学ライオンのように飽きっぽく？しよっちゅう買い替える人もいる。坂井ライオンは移り気な性格という訳ではない、バイク歴は三十年以上で、途中も途切れたことがない、ただ所有しているだけでなく結構乗っている（ほかに趣味がない？）から凄い、モチベーションを維持するのは容易なことではない。

そんな私も休日で天気がいいとバイクに乗らなければという、義務のような気になるのはなぜか？

バイクは車と違い体が直接風に触れるので、季節を肌で感じ取ることができるといのは大きなポイントだと思えます、紅葉も素晴らしいが、どちらかというと新緑の方が好きという人が多いようです。食事もポイントになりますが、あまりいい物を食べたことはなく、ラーメンが多いようです。喜多方の坂内食堂は年に十回以上は行きます。週に三回行つたこともあります。なぜか定期的に食べたくなる味です。コースも二百〜三百キロで半日くらいで気軽に行けます、が、毎度では飽きます。観光もポイントの一つで昨年は天人シリーズに何度も行きました。とりとめの話話を長々としてきました、これからは快く送り出してくれる妻に感謝し、安全運転で楽しみたいと思えます。坂井学ライオンこれから宜しくお願いします。

